

あおば学校支援ネットワーク
荏子田小学校
クラス支援ボランティア活動記録



平成 18 年 4 月 6 日 ~ 4 月 28 日

目 次

I はじめに.....	2
II 荏子田小学校クラス支援活動について	2
(1) 概要.....	2
(2) 趣旨.....	3
(3) 活動の内容.....	3
III 報告（実践記録）	4
IV 評価.....	9
(1) 学校から.....	9
〈1年担任の感想〉	9
〈仲田校長先生の談話（要旨）〉	9
〈教務主任の先生から（特別支援教育コーディネーター）〉	10
(2) ボランティアから.....	11
〈学校の対応について〉	11
〈担任と連携について〉	11
〈ボランティア活動の内容について〉	11
〈今後について〉	12
V まとめ.....	12
VI 今後の方向性.....	13
VII 資料.....	13

I はじめに

「あおば学校支援ネットワーク (ASN)」は、学校・教育支援活動に関わるボランティアと学校をつなぐコーディネーターのネットワークとして、子どもたちの視点にたったより良い学校教育活動を支援することを目的に、平成 17 年 4 月に結成いたしました。

私どもは学校ボランティア養成講座の運営や学校ボランティアセミナー、学校図書ボランティア交流会等の開催を通して、ボランティアの養成やスキルアップを行い、青葉区内の各小学校に対してボランティアの紹介やボランティア活動の提案をさせていただいております。

このたびの荇子田小学校でのクラス支援はその一例で平成 18 年 4 月に実施いたしました。その実施内容などをまとめ記録集を作成しましたので、皆様のご参考にしていただければ幸いです。

II 荇子田小学校クラス支援活動について

(1) 概要

平成 15 年 3 月に文部科学省から「今後の特別支援教育のあり方について(最終報告)」が示され、一人ひとりの教育的ニーズに対応する特別支援教育の必要性が提言されました。横浜市においても、平成 16 年 4 月に「横浜市障害児教育プラン」を策定し、それを踏まえた取り組みが始まっています。特に通常学級に在籍する教育的支援の必要な児童生徒に対応できるような校内における支援体制作りが、早急に求められています。

横浜市では各区 1～2 校をモデル校に指定し、平成 19 年度への全校展開に向けて、指導体制の推進を行っています。具体的な取り組みとしては各学校の状況に合わせて、校内体制作りの他、児童生徒の理解、保護者との連携、関係機関との連携、校内委員会と支援会議の運営、アシスタントティーチャーの活用などがあります。

荇子田小学校は、16 年度の児童の実態から一人ひとりに応じた指導の大切さを改めて認識し、全校および学年での取り組み、他関係機関との連携、そして最終的に保護者・児童の思いと教育活動指導をどのように構築していくか研究を深め、日々の児童の学校生活を豊かなものにしていくために、特別支援教育モデル事業をスタートしました。また教育委員会では前年度より特別支援コーディネーターを養成しており、その特別支援コーディネーターの先生を中心に校内支援体制の構築と充実を図っています。

荇子田小学校では、特別支援教育の対象をいわゆる「特別な障害」のある児童に特化しておらず、児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援をおこなう

教育として位置づけています。横浜市教育委員会はモデル校への支援として教員を目指す学生の現場での実践経験を大切にしており、それを受けて荳子田小学校では大学生のアシスタントティーチャーが学習や学校生活に関して支援を行っています。また、荳子田小学校独自の取り組みとして地域の教育ボランティアの方がアシスタントティーチャーと同様の活動をしています。このように荳子田小学校では、学級内で教員の補助として個別に子どもを支援するスタッフを活用することによって、特別な教育的ニーズのある児童だけでなく、指導が必要な児童に対し様々な教育活動の支援を行っています。

(2) 趣旨

荳子田小学校の特色である「個に応じた教育」を支援するため、あおば学校支援ネットワークでは、一年生の入門期におけるクラス支援ボランティア活動を提案いたしました。

この活動は、一年生の学校生活を円滑に行うために、各学級に配置された教育ボランティアが学級担任を補助することを目的としています。入学したばかりで学校生活に不安を抱える児童に対して、この時期に担任とその他に補助的な役割を持ったボランティアが存在することで、子どもたちが安心して学習や活動に取り組むことができるのではないかと考えたことがきっかけでした。

その結果、子どもたちが早く学校生活に慣れて、一人ひとりの児童がよりよい学校生活を過ごせるようにすることをねらいとして取り組みました。

(3) 活動の内容

対象	荳子田小学校 1年1組 (31名)、2組 (31名)、3組 (31名) (計 93名)
期間	平成 18 年 4 月 6 日 (授業の開始日) から 4 月 28 日までの 17 日間
時間	8 : 30 ~ 1 : 30 (朝の会から下校まで)
場所	荳子田小学校校内及び校外
支援員	あおば学校支援ネットワークよりボランティアを紹介
人数	のべ 54 人 (各学級で最大一日一人または二人)
総時間数	67 時間
活動内容	学級担任の指示による生活支援、給食補助、学習支援などの補助。
謝金	無償

交通費	学校より支給	
給食	児童と共食	
ボランティア保険	各自加入	
スケジュール	活動計画書提出	2月27日
	活動正式決定	3月22日
	ボランティア対象説明会	3月24日
	学校長面談	3月28日
	ボランティアと担任の顔合わせ	4月5日
	実施	4月6日～28日
	意見交換会	5月11日
企画	あおば学校支援ネットワーク 担当コーディネーター 近藤昭雄・水谷俊美	

Ⅲ 報告（実践記録）

4月	学習内容	支援内容
6日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> 給食の白衣の着脱としまい方 トイレの使い方 靴箱の使い方と靴のしまい方 挨拶・返事の仕方 ランドセルの片付け方 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの学校生活への適応の補助をした。 この時期先生方は子どもたちから目を離せない一方、家庭からの連絡帳なども見なければならず、左記の学習の手伝いを行った。
7日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 道具箱の仕分けの仕方 鉛筆の持ち方 給食の白衣の着脱 給食室見学と挨拶の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に慣れていない子どもたちに溶け込むように心がけ、個別に補助の必要な子どもの手伝いを行った。
10日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> 国語 「はる」 図工 「自分の顔をかこう」 給食 	<ul style="list-style-type: none"> 給食の当番の付き添い、配膳や後片付けの手伝いをした。 牛乳パックの始末が難しい様子だったので手伝った。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 名札の着脱で安全ピンの扱いに慣れていない子どもへの対応をした。
11日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語 「はる」 ・ 算数 「なかまづくり」 ・ 音楽 「歌は友達」 ・ 給食 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食の準備と後片付けの手伝いをした。疲れが出てくる時間なので集中力も途切れがちだったので声掛けをした。 ・ 校内めぐりの補助
12日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育 「並び方」 ・ 登校班の顔合わせ ・ 国語 ・ 給食 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語の音読では声をかけることで友達の音読を聞くことができた。他の教科では立ち歩きなどへの声掛けをした。ほとんどは落ち着くことができた。 ・ 牛乳パックの始末は大変そうだったが、色々と工夫していたので、褒めたり励ましたりした。 ・ 登校班の顔合わせではひとりの子どもに付き添った。
13日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科検診⇒粘土 ・ 国語 「本とともだち」 ・ 算数 「なかまづくり」 ・ 給食 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 粘土で作るものが思い浮かばず、困っていた子どもと一緒に粘土遊びをした。 ・ 「ありがとう」「ごめんね」の基本的な言葉のやり取りについて声掛けをした。 ・ 眠気を訴える子どもがいたので、「今日は早く寝ようね。」と声掛けした。 ・ 中休みにプレハブの脇の池で遊んでいる子どもがいたので見守った。 ・ 先生の指示を聞き逃した子どもへの支援を行った。
14日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発育測定 ・ 図工 「好きなもののいっぱい」 ・ 給食 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体操着への着替えでは前後ろを間違える子もいたので合図した。 ・ 子どもたちは補助者が一人いるだけで安心できる様子。忘れ物など心配事があっても伝えることができるという利点があるようだ。 ・ 日常に慣れてきて動きが活発になってきたので、飛び出し、ぶつかりなどの

		<p>怪我がないように見守った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手を怪我した子どもへの手助けをした。
17日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> 国語 「お話読んで」 算数 「仲間作り」 生活 「名刺作り」 給食 	<ul style="list-style-type: none"> 朝一番の教室がきれいだったので、褒める声掛けをした。 朝の支度に時間がかかる子どもがいたので励ました。 給食の準備に手間取る子どもを励ました。
18日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> 国語 「お話読んで」 体育 「はしりっこ」 一年生仲間入りの会 給食 	<ul style="list-style-type: none"> リレーではグループごとにリレーをうまくするための作戦会議があり、話し合いの見守りをした。 先生がいない時に少しふざけあっていたので、声をかけた。 体育の時間に膝の擦り傷の手当てのため付き添った。 体育の時間に学級の活動からはみ出る子どもの対応をした。 先生から、学校生活にそろそろ疲れを感じる頃なのでソフトに包んでくれる人がいると子どもたちも安心できると言っていた。 体育館への移動の誘導・整列のお手伝い。
19日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 国語 「どうぞよろしく」 音楽 「歌と友達」 給食 	<ul style="list-style-type: none"> 中休み後授業に戻ってこない子どもの対応をした。 給食時に班によってはうまく進まない時があったが、子供同士で解決しようとしていたので見守った。 名刺交換ゲームの補助活動。 明日は誰が（ボランティア）来るのかと楽しみにしていた。
20日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> 算数 「くらべよう」 国語 「どうぞ 	<ul style="list-style-type: none"> 給食の準備が遅れがちな時に、子ども同士の声掛けや助けができるような気づきを促す声掛けをした。

	<p>よろしく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳 「4月の目標」 ・ 体育 「はしりっこ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離席、おしゃべりなど集中力が欠けた時、ちょっとした声掛けで戻ることができた。 ・ 中休みに急に雨が降り出したので教室内で遊んだ。その際の見守りをした。 ・ 眠そうにしていた子どもや手遊びなど集中力の欠ける子どもへの声掛け。 ・ 他の子どもの食事の後片付けや机直しなど自主的にする子どもがいたので褒めた。 ・ かけっこで他の子どもが走っている時に「がんばれ！」と応援しようと声掛けした。
21日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語 「どうぞよろしく」 ・ 図工 「好きなものをつくろう」 ・ 音楽 「動物になって遊ぼう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学して3週間目の週末ということで疲れが出る頃。毎時間不調を訴える子どもが出たので対応した。 ・ ひらがな「う」の書字で最後にはらうように伝えた。 ・ 粘土で一人ひとり声を掛けて励ましていくと図工の苦手な子どもも取り組む姿勢が目に見えて違ってくるのが分かった。 ・ 粘土作品のカードに名前と作品名を書いた。
24日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝会 ・ 国語 「どうぞよろしく」 ・ 音楽 「歌と友達」 ・ 生活 「春をさがそう」 ・ 国語 「どうぞよろしく」(授業参観) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝会時に足を怪我した子どもに付き添った。 ・ ひらがなの練習で自信のない子どもへの励まし。 ・ 並んで歩く時に後ろに付いたり、プリント配布の補助をしたり、保健室への付き添いを行った。 ・ 朝会の振り返りとしてお辞儀の練習をした時に、校長先生役をした。 ・ 仲間同士の助け合いができたので、声をかけた。

25日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育 「ゆうぐあそび」 ・ 視力検査 ・ 算数 「数の名前」 ・ 国語 「歌に合わせてあいうえお」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視力検査に交代で行き、残った子どもたちの自習の対応をした。 ・ 今日から集団下校がなくなったので、少し混乱があり対応した。 ・ 書写の丸付けをした。 ・ 体育の見学者の付き添い。
26日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育 「はしりっこ」 ・ 国語 「歌に合わせてあいうえお」 ・ 書写 「ひらがなの練習」 ・ 音楽 「歌と友達」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 背の順がまだ分からない子どもがいたのでその対応を行った。 ・ 家で鉛筆を削ってきていない子どもが多く、授業中に削る子どもが多かったので家で削ってくるように声掛けした。 ・ 書写が早く終わった子どもへの対応をした。 ・ 中休みが終わっても時間通りに戻れない子ども、時々先生の指示が分からない子どもへの声掛けをした。
27日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育 「ゆうぐあそび」 (雨のため一部のクラスで音楽に振替) ・ 国語 「歌に合わせてあいうえお」 ・ 算数 「数の名前」 ・ 道徳 「大切に使おう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に学校生活に慣れてきたためか緊張感がなくなってきた様子だったので対応した。 ・ 左利きの子どもへの鉛筆の持ち方の声掛け。 ・ 授業中に指名されることに緊張している子どもがいたので、励ました。 ・ 片づけが終わっていなかったり、机を戻していなかったりしている友達を手伝うことができたので褒め、一方手伝ってもらった子どもにはお礼をいうよう声掛けした。 ・ 数字を書く練習で数字が正しく書けているかチェックした。
28日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語 「歌に合わせてあいうえお」 ・ 生活 「春をさが 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校用予定地での校外活動の付き添い。 ・ 朝の健康観察で一部の子どもから「い

	<p>そう」(学校横のグラウンドへ春を探しに行きます。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書 「色々なお話を聞こう」 	<p>つも一号車からだ。」という声が聞かれたので先生に伝えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙芝居の聞き方が上手だった。 ・ 上手に机を後ろに椅子を前に出すことができるように励ました。 ・ おなかが痛いと言った子どもが帰りには元気な笑顔になった。その際の対応、見守りや声掛けを行った。
--	---	--

IV 評価

(1) 学校から

〈1年担任の感想〉

良かった点

- ◇ 全体的に良かった
- ◇ 給食のしたく、片付け
- ◇ 保健室への付き添い
- ◇ 授業中課題のチェックを半分ずつできたので、子どもたちも丸がもらえやる気が出てくる。
- ◇ 特別に支援の必要な児童のそばについてもらえ、こちらは全体に一斉授業ができよかった。

今後について

- ◇ 給食準備、中休み、校外指導の時など、指導を支援してくれる方がいると子どもの活動が円滑になるだろう。
- ◇ 子どもたちは、ボランティアの方がいることで安心感があり、早く慣れたように思える。しかしできないことにぶつかるとすぐにボランティアの方に頼ってしまうこともあった。
- ◇ 学校生活に慣れる時期なので、清掃、下校指導も含め 11:30～14:30 までいてくださると子どもたちの学校生活がよりしっかりしたものになるかもしれない。

〈仲田校長先生の談話 (要旨)〉

クラス支援ボランティアが入ることは、初めての体験であり、例えば担任とボランティアがどう意思疎通したらよいか、子どもに先生ではない大人がどう受け止められるか、小中高さらには大(学)へと続く学校生活スタートとして、一番大事な時期をどう支援できるのかなど、心配

な面もありました。

入学から1ヶ月たった今、一年生の教室に行ってみると、ごく自然な学校生活があり、スムーズに学校生活をスタートする事ができました。皆さんにご協力いただいた3週間は、子どもにとって有益であったと評価しています。今後も職員と話し合っ、どういう方面のボランティアが必要か、どう継続したらよいか考えていきたいと思っています。

今は担任だけが子どもたちの指導をするのではなく、地域や保護者が一緒によりよい子どもを育てていくのが、今の時代なのだと感じています。今後も、運動会、作品展などを通じ子どもの成長ぶりを見ていただきたいと思います。

6月10日に運動会がありますが、そのほかの行事の案内もASNに送りますので、ぜひまた子どもたちの様子を見に学校にお越しください。またボランティアのニーズがあるときには日程をお知らせしますので、よろしくお願ひします。

担任の先生方の感想では、子どももスムーズにボランティアを受け入れられて良かったという評価でした。今後もボランティアの皆さんが気がついたことがあれば、学校にアドバイスしていただければと思います。

〈教務主任の先生から（特別支援教育コーディネーター）〉

☆ ボランティア導入について

第一の目的は個に応じた指導を目指す取り組みの一環である。よりきめ細やかな児童支援の充実を目指していくために、担任と連携し児童支援を進める。

第二の目的として、学校に多くの大人がいることで、複数の目で子どもを見つめ、多様な関わりの中で子どもたちを育てていけることである。

現在本校のボランティア支援は、この目的にそって進められていると考えている。

実際に進めていく中での問題点としては、連携の問題がある。これまで担任が一人で行っていた場合には必要のなかった、関連するもの同士の打ち合わせの時間が必要となってくる。教科担任制やチームティーチングやボランティア導入など多くの打ち合わせ時間が必要である。教職員の場合は、勤務時間内に工夫して打ち合わせ時間を設定することも可能であるが、ボランティアの方との打ち合わせは、その方の仕事を終了する1時頃までに行うことは難しい。

今回その解決策として、連携用のクラスノートを利用したが、一方的

にボランティアの方だけに書いていただいたため、ボランティアさん同士の連携には役立ったかもしれないが、担任とボランティアとの連携には十分だったとはいえなかったのではないだろうか。ノートの活用やミーティングの時間設定などの工夫が課題である。

今後の導入については教職員の共通理解の中で進めていくため、校内支援体制の充実が必要である。保護者への要請とボランティアの方への要請の違い、要請の方法や打ち合わせの持ち方など検討する必要がある。

現在図書室の電算化に伴い、図書室ボランティア（バーコード使用による貸し出しや返却）の募集を検討している。必要な人材バンクなどがあり、紹介していただけると有り難い。

（２）ボランティアから

〈学校の対応について〉

- ◇ 校長先生を始め、先生方が皆温かく対応してくださり、ＩＤカードや靴箱までご用意いただきとても歓迎されている感じがして安心してボランティア活動に入ることができました。
- ◇ 大変積極的に理解を示してくださったと思います。好意的、協力的でした。
- ◇ いつも挨拶していただき、気持ちよく活動できました。

〈担任と連携について〉

- ◇ 担任の先生が学級運営をよりし易いように、その日の振り返り、問題点を打ち合わせ、もしくはノートで具体的にご指示があると、もっとよかったと思いました。
- ◇ お互いのやり方に方向性を見つけるには、少し時間が足りなかったような気がします。こちらの登校回数の少なさもあるかもしれませんが。
- ◇ 少しは助けになったかと思いますが、一方かえって担任のお荷物になっているのではという懸念がいつもありました。もう少し、担任との密な連携をとれたらいいなと思いました（担任によってやり方に違いがあるので）。
- ◇ 先生との話し合う時間がないので残念です。

〈ボランティア活動の内容について〉

- ◇ とても役に立ったかどうかは現時点では分かりません。但し、場面

場面では少しはお役にたったかなという思いはあります。

- ◇ 2回しか行っていませんが、1年生とはいえ教室ではきちんと座っていられるので、先生や子どもたちはどの程度必要性を感じているのか知りたい。

〈今後について〉

- ◇ 学習支援などの教育ボランティア活動を希望・・・・・・・・・・9名
- ◇ 図画・工作の授業への教育ボランティア活動を希望・・・・・・・・2名
- ◇ 校外活動付き添いボランティア活動を希望・・・・・・・・・・3名
- ◇ クラブ活動の教育ボランティア活動を希望・・・・・・・・・・2名
- ◇ 保健室の教育ボランティア活動を希望・・・・・・・・・・2名

V まとめ

青葉区内の小学校では、これまで算数の授業や入門期における1年生の給食など、ボランティアが教室に入り直接子どもたちと関わるボランティア活動の例がありました。今回の桂子田小学校におけるボランティア活動では、朝の会から授業、中休み、給食を経て帰りの会まで、1年生が学校にいる間はボランティアも教室に存在するという状況が3週間余り続きました。

環境整備や防犯などこれまでの一般的なボランティアと比較すると、今回の実施に当たっては教師とボランティアとの打ち合わせはもとより、その前段階となるボランティア自身の研鑽や事前準備も重要になります。私どもあおば学校支援ネットワークとしてはそれらに関連付けながら、実施までのプロセスを円滑に進めるための存在としての役割を担いました。

活動を終えて、今回の取り組みを振り返り検証する段階になりましたが、学校、ボランティア双方からの評価を見る限り、よりよい活動へ発展させるための課題はあるものの有益な活動であったといえるのではないのでしょうか。今後のニーズ拡大も予想されます。

子どもはもちろんのことですが、学校、ボランティアともに有益であるということが重要で、一方のメリットが優先される傾向にある活動は継続が困難になりがちです。今回の事例に限らず、学校側の視点からみるとよりよい教育活動を行うための支援が、ボランティア側の視点では、さらに自己実現や生涯学習としても捉えることができれば、さらなる継続性や発展性にも期待ができると考えます。

VI 今後の方向性

平成 14 年に行われた「通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国調査」によると、知的発達に遅れはないものの学習面や行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合は 6.3%であり、各クラス 2～3 人の割合で通常学級にいる可能性があることが明らかになりました。この調査から、多くの教師が「気になる子ども」を担当した経験があり、またこのような状況が学校現場で直接児童生徒を指導する教師の日々の学習指導や生活指導の取り組み方に大きな影響を与えていることを窺うことができます。

一人ひとりの教育的ニーズに対応するという新しい教育観において、様々な様相を呈する子どもたちに対応するためには、より多角的な視点で取り組むことができる指導体制が望まれるのではないのでしょうか。今回の活動の結果を受けて、あおば学校支援ネットワークでは、学校での様々な場面で、学級全体を指導していく教師の横で個別に対応し、学級担任の補助的役割を持ったボランティアが教師を支援する活動を提案していきたいと考えています。そのひとつとして、今秋を目安に実際に学級内で活動する学習支援ボランティアを研修する事業を計画しています。

VII 資料

- (1) 横浜市立荇子田小学校紹介 (添付資料 1)
- (2) 荇子田小学校一年生クラス支援ボランティア活動要項 (添付資料 2)
- (3) 荇子田小クラス支援スケジュール (添付資料 3)
- (4) ニュースレター V. 1～3 (添付資料 4～6)